

# 令和4年度 八潮市小中一貫教育推進計画「はばたきプラン」 ～学びを結ぶ 次のステージへ～

全小中学校共通研究主題

学力・体力の向上と豊かな心を育成する小中一貫教育の推進

## 八潮スタンダード (学習の流れ)

### つかむ・見通す

○課題（めあて）を明確にする



### 指導のポイント



八潮スタンダードによる

# 授業改善

- ・自分でじっくりと書く、読み込む
- ・自分の考えを見直す

- ・キーワード、キーワード
- ・本筋の提示 ・スキット など
- ・考えを表すように指導する



### まとめる

- 課題（めあて）に沿ってふり返る
- 適用問題や評価問題で理解度を確かめる
- 新たな課題を見出す

- キーワード、公式などの提示
- 児童生徒の言葉を活かしてまとめる
- 適用問題や評価問題に取り組む
- ・自分の達成度・理解度を確かめる
- ・定着を図る
- 家庭学習へとつなげる
- 次時への意欲を喚起する

八潮市教育委員会  
八潮市小中一貫教育推進委員会

# 1 計画策定の趣旨

八潮市では、平成18年度に『基礎学力の定着が不十分』、『不登校児童生徒が多い』、『非行問題行動が多い』という当時の教育課題を解決する為に、小中一貫教育を1つの手法として取り入れました。以来、施設分離型の条件の下で全校一丸となって小中一貫教育を推進し、17年目を迎えています。

平成20年度には、市内全小・中学校（小学校10校、中学校5校）を小中一貫教育研究校に指定し、平成23年度までに各中学校ブロックによる研究発表会を行い、各中学校ブロックが目指す小中一貫教育について、全小・中学校で一定の方向性を示すことができました。

平成24年度以降は、毎年、中学校ブロックによる研究発表会を継続しながら小中一貫教育における教育課程の充実を図り、各中学校ブロック内の連携を一層深める研究を推進してきました。

平成27年度までの10年間の取組により、『基礎学力の定着が不十分』、『不登校児童生徒が多い』、『非行問題行動が多い』という、小中一貫教育導入当初の課題は大きく改善され、小中一貫教育の土台が整いました。

これまでの取組の成果を踏まえ、平成28年度からの10年間を「次のステージ」と位置づけ、学習指導要領が示す主体的・対話的で深い学びを実現する為の授業展開案である『八潮スタンダード』（P2参照）による授業改善を推進しています。平成28年度に試行、平成29年度より全面実施となり、現在、各校の実態に応じた「スタンダード」へと形を変えながら実践は深化しています。

こういった状況を受け、令和4年度の重点を以下のように設定します。

## 令和4年度の重点『八潮スタンダードによる授業改善の更なる推進』

小中一貫教育の本質である、9年間の「授業のつながり」ととことんこだわり、授業改善を推進し、全ての児童生徒に「学力」、「体力」、「豊かな心」を育成していきます。

**Q:小中連携教育と小中一貫教育の違いは何ですか？**

**A:《小中連携教育》**小中学校が互いに情報交換、交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育。  
**《小中一貫教育》**小中連携のうち、小中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育。

**Q:なぜ、導入当初から授業改善に取り組まなかったのですか？**

**A:**小中一貫教育を推進するために、1番大切なことは『教職員の意識改革』です。八潮市の小中一貫教育は施設分離型だからこそ、小学校と中学校の教員の交流を密にし、同じ方向を向いて教育活動に臨まなければなりません。その為、土台形成を大切にしてきました。



小中の連携により、焦らず、じっくりと小中一貫教育の土台を形成してきました。



小中一貫教育の本質は授業です。土台が整った今、義務教育の9年間で『授業』でつなぐことを目指します。

## 八潮市の『小中一貫教育』のあゆみ

（小中の連携による土台づくり）

（小中一貫教育の推進《授業改善》）

平成18年～平成27年

平成28年～

## 2 小中一貫教育の推進に関する施策

↑学力の向上↑

### 施策1 「八潮スタンダード」を活用した授業改善の推進

重点施策

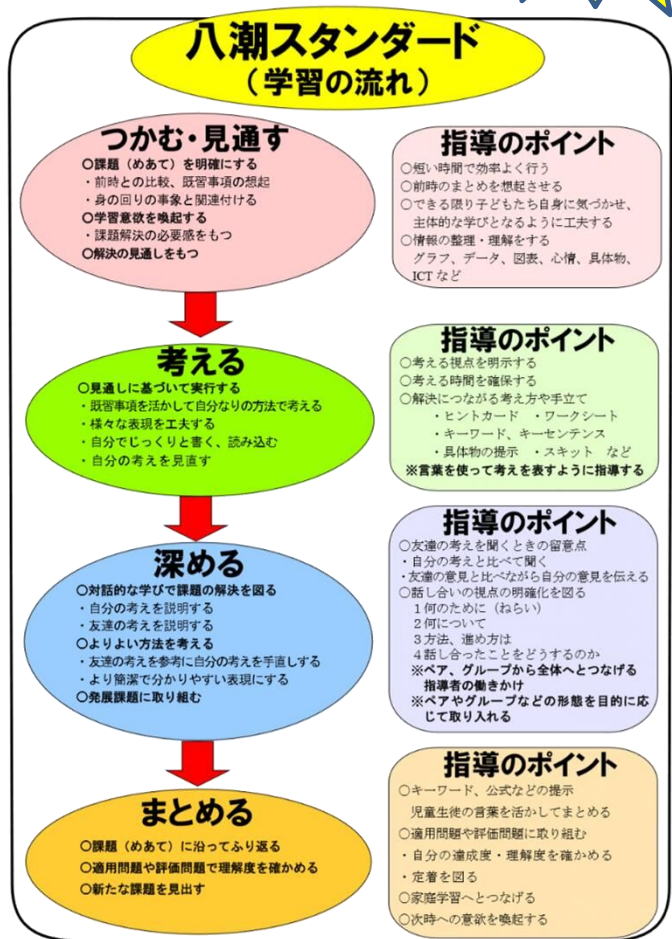
学習指導要領が示す、「主体的・対話的で深い学び」を実現する為に、八潮市では、「八潮スタンダード」（目指すべき授業展開を示したモデル）を活用した授業改善を推進しています。教師主導型、説明中心の授業から脱却し、児童生徒の主体的で協働的な学習活動を保障します。

小中一貫教育推進検討部会「まなび（学力）部会」では、「八潮スタンダード（理科版）」「八潮スタンダード（国語版）」「八潮スタンダード（算数・数学版）」などの「各教科版」を作成し、市内各校で活用しています。

現在、各校においては「八潮スタンダード」を活用した授業改善が進められ、各校の実態に応じた「学校独自のスタンダード」も生まれる等、浸透・深化しています。

また、令和3年度は、一人一台端末などのICT機器を活用した「八潮スタンダード」を実践し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りました。

令和4年度も「八潮スタンダード」を活用した授業改善を一層推進していきます。



**Q: 全ての教科で「八潮スタンダード」は活用できるのですか。**

**A:**「八潮スタンダード」は「全ての教科で活用できるように」という視点で作成しています。「課題を明確にすること」、「見通しを持って活動に取り組むこと」、「対話的な活動を取り入れること」、「振り返りの時間を確保すること」などは、全ての授業において大切な要素です。

**Q: なぜ、各教科版のスタンダードが作成されたのですか。**

**A:**教科の特性を踏まえた、より質の高い授業実践を可能にする為です。

**Q: 「八潮スタンダード」は、指導法を一定の型にはめることにならないのですか。**

**A:**「八潮スタンダード」は、教師の授業を型にはめるためのものではなく、教師主導、説明中心の授業から脱却し、児童生徒の活動の充実を図ることを目的としています。児童生徒の実態に応じて工夫して実践することが大切です。

**Q: 「八潮スタンダード」は学習指導要領を踏まえた内容になっているのでしょうか。**

**A:**学習指導要領では、児童生徒の「学びの質」に着目して、全教科・領域において授業改善を活性化させることを柱の一つとしています。中でも、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。「八潮スタンダード」は、こうした点を十分に踏まえて作成されています。

Q&A  
コーナー



## 施策2

## 「新体力テスト攻略ハンドブック」活用による実態把握と授業改善

体力は活動の源であり、健康の維持の他、意欲や気力の充実に大きく関わっており、人間の発達・成長を支える基本的な要素です。また、より豊かで充実した人生を送るためにも必要な要素であると言えます。

八潮市では体力の向上を図る為、平成28年度にそれまで4部会体制であった小中一貫教育推進検討部会に、「まなび（体力）部会」を新設しました。

「まなび（体力）部会」では、「新体力テスト」に着目し、その結果を授業改善へと生かす為の取組を推進しています。「新体力テスト」で得られたデータが、体育・保健体育の授業の基盤となり、授業改善の進捗状況を示す一つの目安となるからです。

しかしながら、「新体力テスト」において児童生徒の本当の体力を測定できていないという現状がありました。そこで、「新体力テスト攻略ハンドブック」（教師用、児童生徒・保護者用）を作成し、正確な測定の徹底が図られるように、活用を推進してきました。各校において、児童生徒の実態把握が図られてきたことを受け、小中一貫教育の本来の目的である9年間の授業のつながりに目を向け、平成30年度に小中一貫教育推進検討部会「まなび（体力）部会」において「八潮スタンダード（体育版）」を作成し、授業改善に着手しました。

令和4年度は「新体力テスト」を正確に測定することで児童生徒の実態を的確に把握し、「八潮スタンダード（体育版）」を活用した授業改善を推進します。

**児童生徒向け**

**教師向け**

**八潮スタンダード 体育版  
（学習の流れ）**

**Q:「新体力テスト」実施にあたり、注意しなければならないことは何ですか。**

**A:「新体力テスト」実施にあたっては、測定結果から重点となる取組を計画、実行し、達成状況を評価することが大切です。そして、評価に基づき取組全体を改善することが重要です。その為、児童生徒が持てる力を十分に発揮できるようにする等の注意が必要です。**

**Q:児童生徒の力を最大限に引き出す為に、どんな方法がありますか。**

**A:県の体力プロフィールシートを活用し、個の目標を明確にする等、児童生徒が意欲的に「新体力テスト」に取り組むことができるようにします。また、事前に研修会を実施し、測定方法はもちろんのこと、声掛けの仕方、事前のウォーミングアップ等について、共通理解を図ることも有効です。**





## 施策4 「はばたきファイル」等の活用による「切れ目のない支援」の推進

小中一貫教育推進検討部会「しえん部会」では、平成29年度に「はばたきファイル」を作成しました。この「はばたきファイル」は、これまで活用されてきた、学習や生活面において特別な支援を必要とする児童生徒の為に「個別支援ファイル」と、様々な理由から不登校傾向にある児童生徒の為に「登校支援個人票」を統合し、新たなツールとして作成されたものです。

平成30年度に試行的に活用された「はばたきファイル」は、令和元年度から全面実施となり、各校において、様々な困り感を持つ児童生徒の情報を共有するとともに、次の学年へと確実につないでいきます。

令和3年度には、はばたきファイルの有効活用を促進するため、令和4年度からはばたきファイルを電子化して、引き継ぐこととしました。電子化することで、より記入しやすくなりました。

また、「しえん部会」では平成30年度に「～はじめのいっぽ～八潮スタンダード」につなげるために「～はじめのいっぽ～八潮スタンダード」を作成しました。これは、八潮の子どもたちが、義務教育9年間をしっかりと学んでいくために、「まず身につけて欲しいこと」について、まとめたものです。

令和元年度には、通常学級における児童生徒も含めて、支援が必要な児童生徒に対して、支援が必要な場面や状況に対応する教師に必要な考え方や姿勢、その具体的な手立てについてまとめた「八潮スタンダード+しえん」を完成させ、活用してきました。

令和4年度は、「はばたきファイル」による「切れ目のない支援」と、「～はじめのいっぽ～」及び「八潮スタンダード+しえん」の活用を推進します。

～はじめのいっぽ～  
八潮スタンダードにつなげるために

机の片を整理

指のマーク

席に座る

話を聞く

八潮スタンダード  
～つなぐ～

つかむ

考える

深める

まとめる

取組方法  
「学びと自立・社会参加を育むための支援ツール」

児童生徒の困り感や、効果的な支援方法をつなぎます。

**Q:「はばたきファイル」は、どんな時に活用するのですか。**

**A: 通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒について、情報共有する為、年度当初の学年・学級開きの時の情報交換会、生徒指導部会、教育相談部会、特別支援教育部会等で活用します。また、児童生徒に関わる記録や会議の資料の写しなどを添付することが可能なファイルになっています。学年が上がる中で心配な点が出てきた際、過去の状況を把握する為に活用することもできます。**

**Q:「はばたきファイル」は、全てのシート・項目について記入しなければならないのですか。**

**A:「必要な時に」、「必要な部分」を記入します。例えば、学習面で支援を必要とする児童生徒について、出欠席の状況を記入する必要はないと考えられます。しかしながら、個に応じて柔軟に対応することが大切です。**



# 施策5

## 「GIGA端末」等の活用による「情報活用能力」の育成

学習指導要領では情報活用能力が言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられました。そのため、GIGA端末を使って情報を集め、その中から必要なものを整理して発信する能力を育成することにより、学習指導要領の内容をしっかりと学ぶことにつながります。

情報活用能力は、各教科の学びを支える基盤であり、各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であるとともに、そうして育まれた情報活用能力を発揮させることにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていきます。

GIGA 端末の活用が開始された令和3年度は、「小中一貫教育推進検討部会」の各部会において「GIGA 端末の有効な活用」を共通テーマに研究しました。まなび(学力)部会では、授業における GIGA 端末の有効活用について、まなび(体力)部会では、体育の授業における GIGA 端末の有効活用について、こころ部会では、道徳の授業における GIGA 端末の有効活用について、しえん部会では、個に応じた GIGA 端末の有効活用について研究しました。各部会で研究したことは、市内各校で共有され、GIGA 端末の活用が市内に広まっています。

そこで、令和4年度は、各部会で検討していた GIGA 端末の有効活用についての研究を深めるため、「小中一貫教育推進検討部会 ICT 部会」を新設し、研究を進めていくことにしました。

令和4年度は、小中一貫教育の観点から小・中学校で共通して指導していくことの検討や授業研究等を通して、授業における八潮スタンダードによる GIGA 端末の有効活用について研究し、GIGA 端末等の活用による情報活用能力の育成を推進していきます。

小・中一貫教育推進検討部会 ICT 部会

1. 部会名：ICT活用指導案

2. 部会員：小・中一貫教育推進検討部会 ICT 部会

3. 部会活動の目的：ICT活用指導案の作成・共有

4. 部会活動の目標：ICT活用指導案の作成・共有

5. 部会活動の成果：ICT活用指導案の作成・共有

6. 部会活動の反省：ICT活用指導案の作成・共有

7. 部会活動の今後の展望：ICT活用指導案の作成・共有

8. 部会活動の連絡先：ICT活用指導案の作成・共有

9. 部会活動の報告：ICT活用指導案の作成・共有

10. 部会活動のまとめ：ICT活用指導案の作成・共有



ICT活用事例集

1. 部会名：ICT活用事例集

2. 部会員：小・中一貫教育推進検討部会 ICT 部会

3. 部会活動の目的：ICT活用事例集の作成・共有

4. 部会活動の目標：ICT活用事例集の作成・共有

5. 部会活動の成果：ICT活用事例集の作成・共有

6. 部会活動の反省：ICT活用事例集の作成・共有

7. 部会活動の今後の展望：ICT活用事例集の作成・共有

8. 部会活動の連絡先：ICT活用事例集の作成・共有

9. 部会活動の報告：ICT活用事例集の作成・共有

10. 部会活動のまとめ：ICT活用事例集の作成・共有

ICTとは

Information (情報)

Communication (コミュニケーション)

Technology (技術)

情報と技術を駆使して、コミュニケーションを図ること。

授業で活用できるGoogleアプリ

Google Meet, Google Classroom, 検索, Google Drive, Jamboard, Forms, YouTube, Keep, Google Sheets, Google Slides, Google Docs, Google Sites

Q:八潮市のプログラミング教育について教えてください。

A:プログラミング教育は、Society5.0 社会に合わせた教育の変換として論理的な思考力を育成するため、小学校では 2020 年度から、中学校では 2021 年度からプログラミング教育が必修化され、各学校での学習が義務付けられるようになりました。

八潮市では、文部科学省が作成した「プログラミング教育の手引き」や外部講師等を活用してプログラミング教育を推進しています。また、柳之宮小学校が、市からの指定を受けてプログラミング教育について研究しているところです。

令和4年度は、「ICT部会」においても、市内各校の実践を共有し、プログラミング教育を推進していきます。



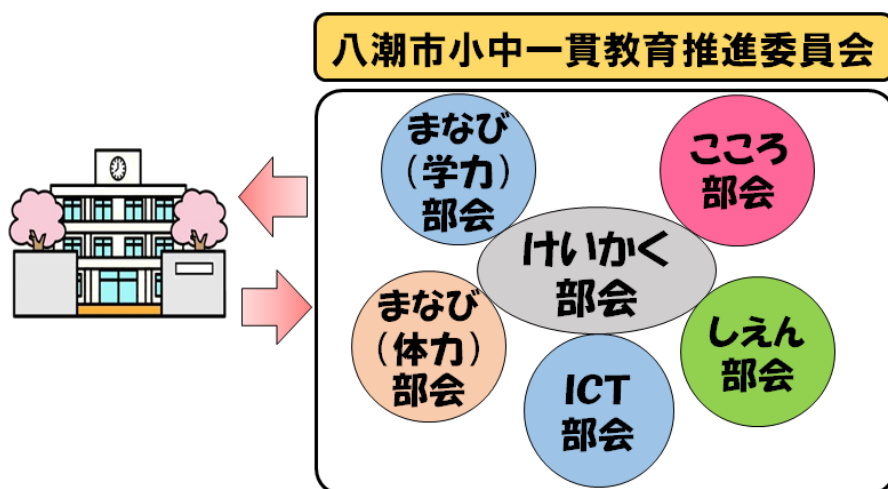
# 3 計画の推進体制

## 【1】6部会の組織

教育委員会と校長会・教頭会代表者の22名からなる小中一貫教育推進委員会を設置、その下に、「けいかく部会」、「まなび（学力）部会」、「まなび（体力）部会」、「こころ部会」、「しえん部会」「ICT部会」の6部会を設置し、推進体制を整えています。

この6部会には、それぞれ各校から1名ずつの計15名の教職員が参加しています。また、校長会・教頭会から顧問として1名ずつを迎え、部会の運営にあたる担当指導主事のもと協議が進められています。6部会に参加している教職員の数は102名となり、八潮市全体の教職員の約2割にあたります。多くの現場の先生の声の吸い上げ、施策の実現を目指しています。八潮市の小中一貫教育は、市内の教職員全員で推進していると言えます。

6部会での進捗状況は、「けいかく部会」の委員である主幹教諭・教務主任から各校へと周知が図られます。令和4年度は6部会体制で小中一貫教育を推進していきます。



### 【けいかく部会】

各校主幹教諭または教務主任が所属。各中学校ブロックの計画立案、実践、評価に対し、中心となります。また、他4部会の実践内容の集約・校内周知を行います。

### 【まなび(学力)部会】

児童生徒の学力向上を目指した施策を検討、展開します。

### 【まなび(体力)部会】

各校体育主任または体育担当が所属します。児童生徒の体力向上を目指した施策を検討、展開します。

### 【こころ部会】

各校生徒指導主任が所属します。児童生徒の豊かな心の育成を目指した施策を検討、展開します。

### 【しえん部会】

特別支援教育の充実を目指した施策を展開します。

### 【ICT部会】

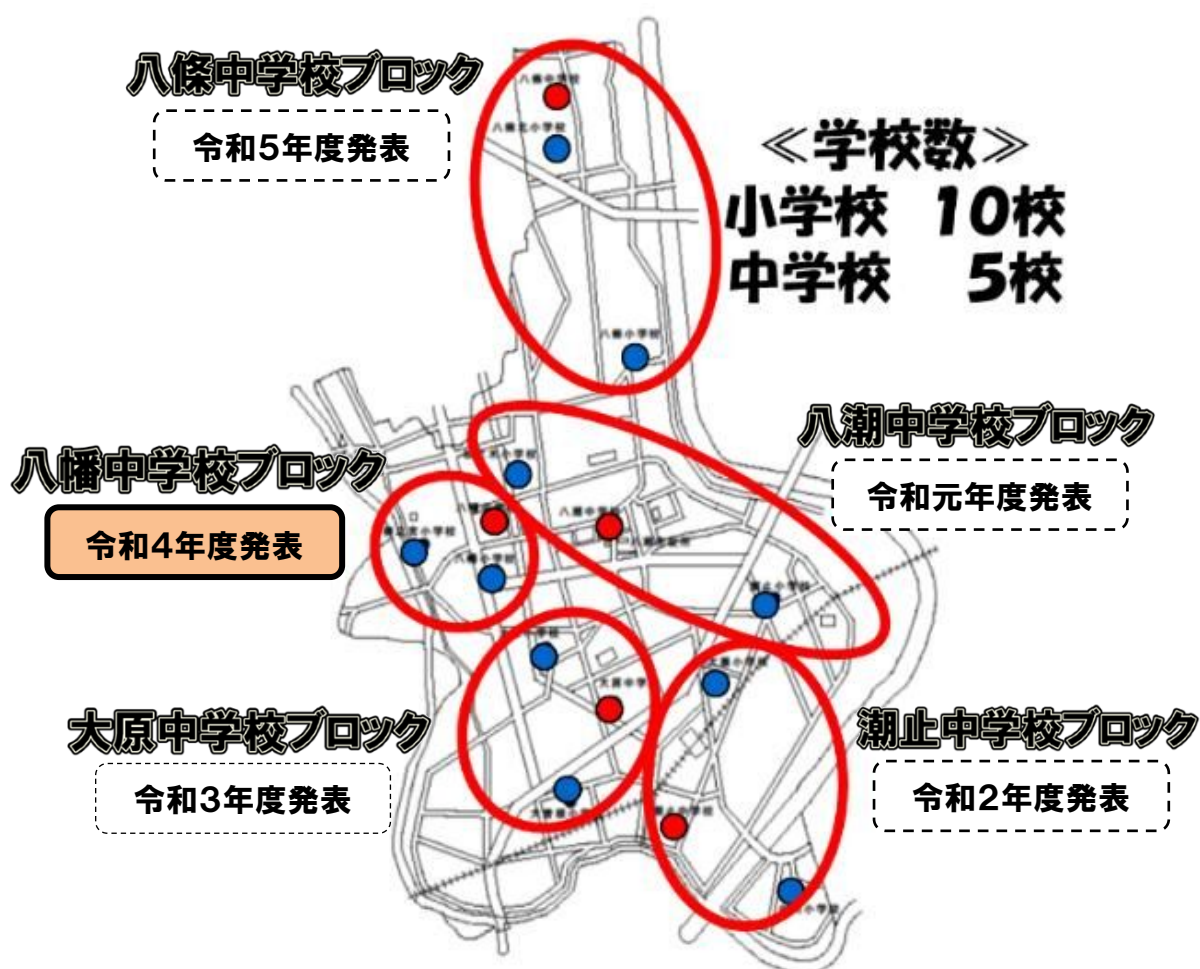
ICTの効果的な活用を目指した施策を検討、展開します。

※平成30年度より、「しえん部会」については、通常学級に在籍する困り感を持つ児童生徒が増えていることを受け、通常学級の担任と特別支援担当の先生で構成しています。また、部会での協議が充実するように、各中学校ブロックで通常学級の担任が2名、特別支援担当の先生が1名となるように工夫しています。

## 【2】中学校ブロックの組織

八潮市では、小学校2校、中学校1校でブロックを編成し、「施設分離型」での小中一貫教育を推進しています。「できることから創める」を合言葉に推進してきた本市の小中一貫教育は、限られた条件の中から、現場の先生方の創意工夫のもと生まれた「施設分離型だからこそもの」であると言えます。市全体の共通主題を「学力・体力の向上と豊かな心を育成する小中一貫教育の推進」とし、共通して取り組む事項を設けていますが、各ブロックでは、市全体での取組の他に、ブロックの実態に応じた取組が進められています。

こうした中、平成30年度から令和5年度までの6年間、市内全小中学校を「小中一貫教育研究校」として、研究指定（第四次）しました。毎年、研究発表ブロックによる「小中一貫教育研究発表会」を実施することで、ブロックの独自性を生かした取組を推進するとともに、他ブロックの実践を共有する機会としています。



### ブロックの実践を支える取組

#### 【小中一貫教育合同研修会】

中学校ブロック内の小・中学校の教職員が一同に会し、小中一貫教育推進の為にブロックの計画・方向性を確認し、「八潮スタンダード」を活用した授業改善をはじめとする具体的な実践内容について、協議・共有します。（令和3年度は、中学校ブロック毎にオンラインで実施）



## 4 その他の推進事業

### 【1】小中一貫教育に係る研究助成

第四次研究指定に伴い、各校基本額を10万円とし、小中一貫教育の研究のための助成を行います。また、基本額とは別に令和4年度、令和5年度の研究発表ブロックには発表年度に応じた助成が行われます。

### 【2】八潮市教職員派遣研修事業

八潮市では、全国学力・学習状況調査でも上位に位置している秋田県の小坂町立小坂小・中学校に市内の教職員を5日間に渡って派遣しています。派遣された教職員は、小坂小・中学校で授業参観及び授業実践に取り組みます。平成27年度に開始され、令和元年度までに24名の教職員が研修に参加しました。（令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止）平成29年度からは、小坂町からの教職員が八潮市に研修に訪れる等、互いに学び合う研修へと発展しています。

研修に参加した教職員は、「**八潮スタンダード推進教員**」として所属校の中核として授業改善を推進するとともに、他校の臨時的任用職員、2年次、3年次の教職員への指導にあたっています。



令和元年度  
八潮市教職員  
派遣研修教員  
による、小坂町  
での授業実践  
の様子。



令和元年度  
中川小学校で行  
われた、八潮市・  
小坂町教職員に  
よる協働授業の  
様子。

### 【3】教職員派遣受け入れ事業(綾瀬市県外学校運営研修事業の受け入れ)の実施

八潮市では、令和元年度から教職員派遣受け入れ事業として神奈川県綾瀬市の教職員を4日間受け入れています。

令和2年度は、綾瀬市から4名の教職員が派遣され、八幡小学校、中川小学校、八條北小学校、大瀬小学校、八幡中学校、潮止中学校にて、合計4日間の研修を行いました。研修の受け入れにあたっては、八潮市の小中一貫教育の取組をはじめ、ブロック単位での特色ある取組、学校の組織体制等について協議し、情報交換しました。また、綾瀬市の教職員にも研究授業後の研究協議会に参加してもらい、相互研修を行いました。



神奈川県綾瀬市からの教職員派遣受け入れ事業を通して、八潮市の小中一貫教育を一層推進していきます。（令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止）

### 【4】八潮市ジョイント教室(入学説明会)の実施

児童・保護者の中学校進学への不安の軽減を図るとともに、小中学校教職員の相互理解を促進する為、小学校6年生の児童と保護者を対象に市内の中学校で一斉に八潮市ジョイント教室（入学説明会）を実施しています。

中学校生活の概要説明の他、授業体験や部活動見学を実施する等、各中学校で工夫した取組が行われています。

## 【5】八潮 Basic の電子化

八潮市独自の教育課程である「えらべる科」や朝自習、放課後の宿題等で活用を図ってきた「八潮 Basic I・II」は、児童生徒の基礎学力の向上に一定の効果を発揮してきました。本来、「八潮 Basic I・II」は、児童生徒の興味関心や学力の状況に応じて自由に活用することを想定して作製されたものです。平成30年度までは、「八潮 Basic I・II」を冊子として配付していましたが、令和元年度より、学校や児童生徒にとって使い勝手が良いように電子化し、「使いたいときに使いたい部分だけを」授業や補充的な学習の時間に活用しています。



## 【6】生活ガイド・学習ガイドの電子化

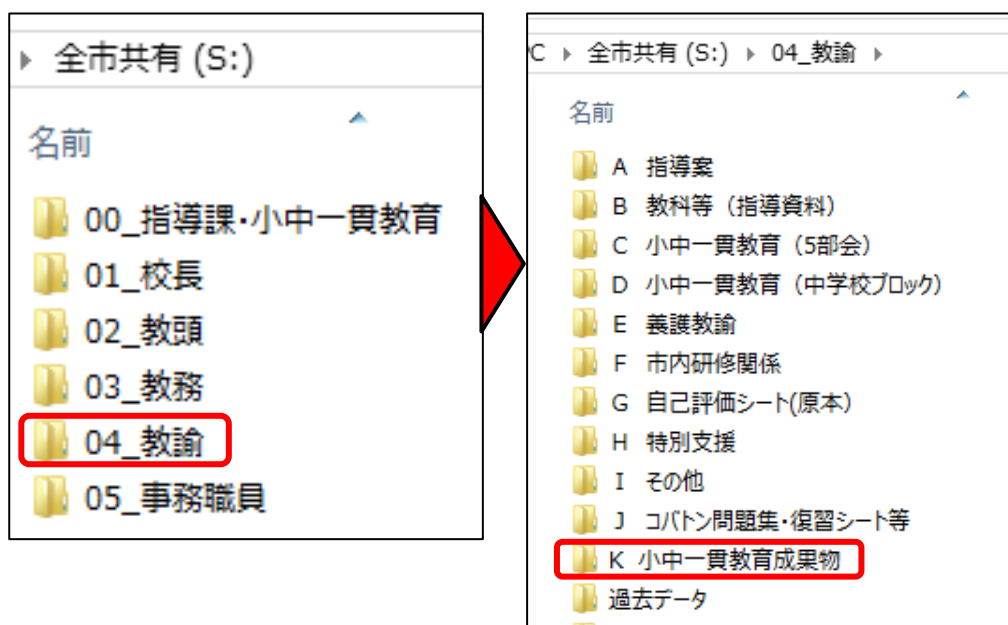
生活・学習規律を確立する為、生活面と学習面において、各学年で身に付けるべき内容を下敷きにして、毎年小学校1年生に配付してきました。しかしながら、市内の児童生徒に生活・学習規律が確立されてきたこと、各校の実態に応じた独自のものが作成されていることを受け、自由に活用できるよう、令和元年度から下敷きでの配付をやめ、電子化しました。



## 【7】小中一貫教育に係る成果物

小中一貫教育に係る成果物については、下記の場所に保管してあります。

**全市共有 → 04\_教諭 → K 小中一貫教育成果物**



八潮市小中一貫教育 これまでのあゆみ

| 年 度    | 内 容                                                                                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成18年度 | ・内閣府より、「構造改革特別区域計画(八潮市小中一貫教育特区)」に認定される(～平成20年度まで)。これにより、八潮市独自の教育課程(えらべる科・ふるさと科・こくさい科)の編成が可能になる。                                                                            |
| 平成19年度 | ・八潮中学校ブロック(潮止小学校・松之木小学校・八潮中学校)・八條中学校ブロック(八條小・八條北小・八條中学校)を研究委嘱校として指定<br>・八潮市小中一貫教育広報紙「はばたきプラン」発行開始<br>・八潮市学校教育審議会の設置・開催(～平成21年度まで)                                          |
| 平成20年度 | ・教育課程特例校に認定される(～平成22年度まで)<br>・市内全小・中学校を「小中一貫教育研究指定校」に指定するとともに、5つの中学校ブロックを組織し、ブロックの実態に応じた小中一貫教育を推進                                                                          |
| 平成21年度 | ・第1回八條北小学校・八條中学校合同運動会・体育祭開催<br>・全教科・領域にわたる9年間の「単元配列表」の配布・活用開始<br>・八潮中学校ブロック・八條中学校ブロック初の研究発表会開催                                                                             |
| 平成22年度 | ・初代「八潮 Basic」(基礎問題集)の配布開始<br>・「八潮市小中一貫教育生活・学習ガイド」の配布開始<br>・八潮市小中一貫教育懇談会の設置・開催(～平成23年度まで)<br>・潮止中学校ブロック(中川小学校・潮止中学校)初の研究発表会開催                                               |
| 平成23年度 | ・ジョイスタ(土曜勉強会)開始<br>・ノーDAY(ノー携帯・ノーゲーム・ノーテレビによる読書推進日)の市内統一実施開始<br>・大原中学校ブロック(大曾根小学校・大瀬小学校・大原小学校・大原中学校)・八幡中学校ブロック(八幡小学校・柳之宮小学校・八幡中学校)初の研究発表会開催                                |
| 平成24年度 | ・新学習指導要領に対応した全教科・領域にわたる9年間の「単元配列表」の配布・活用開始。<br>・2代目「八潮 Basic I」(基礎問題集)、「八潮 Basic II」(応用問題集)の配布開始<br>・「参観のしおり」配布開始<br>・八條中学校ブロックで2回目となる研究発表会開催<br>・八潮市学校教育審議会の開催(～平成26年度まで) |
| 平成25年度 | ・学びをつなぐ「春休みの課題」の配布開始。<br>・八潮中学校ブロックで2回目となる研究発表会開催                                                                                                                          |
| 平成26年度 | ・市内3校に5名の学力向上指導員配置事業開始<br>・潮止中学校ブロックで2回目となる研究発表会開催<br>・通学区域の変更により、潮止中学校ブロックに大瀬小学校が加わる。                                                                                     |
| 平成27年度 | ・秋田県小坂町派遣研修事業開始<br>・大原中学校で2回目となるブロック研究発表会開催                                                                                                                                |
| 平成28年度 | ・小中一貫教育推進検討部会に「まなび(体力)部会」を加え、5部会体制を確立<br>・全小中学校で「八潮スタンダード」の試行的活用を開始<br>・「(通称)いじめゼロ条例」を基にした授業実践を市内全学級で実施<br>・八幡中学校ブロックで2回目となる研究発表会開催                                        |
| 平成29年度 | ・全小中学校で「八潮スタンダード」を全面实施<br>・秋田県小坂町より初めて3名の教職員を受け入れ、合同の研修会を開催<br>・教師用「新体力テスト攻略ハンドブック」活用開始<br>・「こころ部会」と「しえん部会」が初の合同開催<br>・八條中学校ブロックで3回目となる研究発表会開催                             |
| 平成30年度 | ・「八潮 Basic」のデータ化<br>・「不登校対策の手引き」活用開始<br>・児童生徒、保護者用「新体力テスト攻略ハンドブック」の活用開始<br>・個別支援ファイルと登校支援個人票を統合した「はばたきファイル」活用開始                                                            |
| 令和元年度  | ・「不登校対策の手引き」を全教職員に配付<br>・児童生徒、保護者用「新体力テスト攻略ハンドブック」を市内全児童生徒に配付<br>・八潮中学校ブロックで3回目となる研究発表会開催                                                                                  |
| 令和2年度  | ・潮止中学校ブロックで3回目となる公開授業研究会開催<br>・教職員派遣受け入れ事業(綾瀬市県外学校運営研修事業の受け入れ)の実施(4日間)<br>・『「八潮の教育」合同報告会2020～小中一貫教育ではばたく児童生徒～』を開催                                                          |
| 令和3年度  | ・大原中学校ブロックで3回目となる研究発表会開催<br>・『「八潮の教育」合同報告会2021～小中一貫教育ではばたく児童生徒～』を開催                                                                                                        |



初代「八潮 Basic」



2代目「八潮 Basic I・II」



不登校対策の手引き